

総務教育常任委員会資料

(令和8年2月25日)

ページ

■ 第2回鳥縁祭の開催結果について	【政策統轄課】・・・2
■ LINE版「とりふる」の運用開始について	【政策統轄課】・・・3
■ 地域未来戦略(地域産業成長プラン)の状況について	【政策統轄課】・・・4
■ 令和7年度 鳥取県ミラ・クル・とっとり運動・SDGs活動表彰について	【協働参画課】・・・6
■ とっとり若者活躍局 令和7年度活動報告会の開催結果について	【協働参画課】・・・8

政策統轄総局

第2回鳥縁祭の開催結果について

令和8年2月25日
政策統轄課

県外の若者と本県が緩く繋がり続ける「とっとりへウェルカニネットワーク」プランナー（首都圏在住の本県出身大学生）が企画・運営した交流会「鳥縁祭」が以下のとおり開催されました。

- 1 日時 令和8年2月7日（土）午後3時30分～5時30分
- 2 場所 IKUSA ARENA（東京都練馬区）
- 3 参加者 本県にゆかりのある首都圏在住の大学生、若手社会人等 約170名
- 4 テーマ 東京でミニ鳥取に没入
※来場者が4～6名のチームを組み、運営側が用意した各ブースやステージごとの課題（クエスト）に挑戦する内容で、体験を通じて本県への知識や愛着を深める。
- 5 主催 とっとりへウェルカニネットワーク実行委員会
※首都圏在住の本県出身大学生「とっとりへウェルカニネットワークプランナー」8名などで構成する実行委員会形式で開催（鳥取県は後援）

6 内容

（1）鳥取の魅力体験ブース（計10ブース）

プランナーが企画・運営した鳥取の魅力体験やプランナーと参加者が交流し、本県を楽しみながら知ってもらうブースを出展。

ア とっとり若者活躍局とのコラボブース

とっとり若者活躍局メンバー（高校生及び大学生5名）と連携して、1年後の自分に手紙を届ける「とっとりミライポスト」及び鳥取の名産等が記載された「とっとり神経衰弱」を体験しながら参加者と交流。

イ 企業コラボブース

大山乳業農業協同組合と株式会社人形のはなふさに協賛いただき、モザイクアートを作成。

ウ 流しびな制作体験ブース

鳥取市用瀬町の伝統工芸品「流しびな」づくりを体験。

※上記のほか、鳥取砂丘の砂と触れ合える体験、学生が製作した大山ジオラマの観覧、本県特産品の試食、しゃんしゃん傘づくり体験、県庁施策紹介といったブースも設置。



▲とっとり若者活躍局ブース



▲企業コラボブース



▲しゃんしゃん傘踊りの様子

（2）ステージ企画

ア みんなで踊ろう！しゃんしゃん傘踊り

参加者がプランナーと一緒に鳥取しゃんしゃん傘踊りを体験。

イ FM鳥取コラボステージ

FM鳥取のロジャー氏と山下弥生氏を呼んで公開ラジオ収録を実施。



▲参加者・プランナーの集合写真

7 プランナー・参加者の声

- ・チーム一緒に一つのイベントを形にできたことは大きな学びで、準備の大変さと同時に、作り上げる楽しさも実感しました。また、関係人口を増やすには、まず関わること、知ることから始めることが大切だと改めて感じました。（プランナー）
- ・とても楽しく、改めて鳥取の温かさに気づきました。（参加者）

8 今後の展開

このイベントを契機として、共同交流会の開催やSNSによる情報発信等、本県と繋がり続ける継続的な交流を通じて、ネットワークの拡大やプランナーとして関わる若者を増やし、関係人口の拡大や将来的なIJUターンに繋げていく。

LINE 版「とりふる」の運用開始について

令和8年2月25日
政策統轄課

県内就職、県内での暮らしや移住に役立つ情報のポータルサービスとして令和2年2月に運用開始した、ふるさと鳥取アプリ「とりふる」について、LINE 版へリニューアルし、2月18日に運用を開始しました。また、運用開始にあたり、改善に協力いただいた方々が集まり、セレモニーを行いました。

1 新「とりふる」の概要

新「とりふる」(「LINE とりふる」)は、従来の機能はそのままに、より使いやすくし、より多くの学生等が情報を開封して鳥取県への関心を高め、行動を促す仕組みとなるように構築しました。また、県外にいても鳥取県とのつながりを持ち続けられるサービスを目指します。

○「LINE とりふる」の主な特長

- ①LINE 化により、日常的に触れやすい仕組みとなった。
 - ※コミュニケーションアプリ「LINE」を活用したビジネス向けのサービス「LINE 公式アカウント」を利用。
 - ※「LINE」は、10～30代で利用率9割以上と特に高く、全世代でも8割を超え、ほとんどの方が日常的に利用している。
- ②利用者の属性や関心に応じた情報を送信し、利用者の開封率を向上させる。
 - ※登録時に高校生、学生、保護者、移住検討者等の属性を把握し、属性毎に表示画面や配信情報を変える。
- ③利用状況やアンケート等で効果を測定し、継続的に運用改善と利用満足度向上を図る。

2 「LINE とりふる」運用開始セレモニーの開催

- (1) 日時 令和8年2月18日(水) 午後1時～1時15分
- (2) 場所 県庁本庁舎3階 第4応接室
- (3) 内容

- ①知事あいさつ
- ②開発事業者による「LINE とりふる」サービス概要説明
 - ・県内企業情報の掲載など今までの魅力はそのまま、より使いやすくした。
 - ・高校生・学生向けの地域情報の拡充や利用者が欲しい情報を届ける仕組みにした。
 - ・使えば使うほど利用者に馴染むツールを目指し、機能拡充を行っていく。
- ③若者による「LINE とりふる」操作デモンストレーション・感想
 - ・高校生にも親しみやすいデザインになった。
 - ・従来のアプリと比べ、どの機能を使ったらよいか迷わなくなった。
- ④SNS 発信事業者による「LINE とりふる」周知協力コメント
 - ・従来のアプリは開封率が低かったのが課題、利用者属性に応じた発信に期待する。
 - ・SNSで「LINE とりふる」の広報協力を行う。
- ⑤記念写真撮影



3 今後の展開

来年度にかけては、企業紹介動画検索機能、就活・移住イベント等の申込み・当日受付・参加記録機能等を搭載しつつ、属性毎への継続的な情報配信を行っていきます。

地域未来戦略（地域産業成長プラン）の状況について

令和8年2月25日
政策統轄課

国の地域未来戦略に関する、現時点での国の動き及び県の対応については、以下のとおりです。

1 これまでの国の動き

令和7年10月21日	高市内閣発足
令和7年10月24日	所信表明演説で「地域未来戦略」の推進を表明 ⇒地域ごとに産業クラスターを戦略的に形成していくことを目指す
令和7年11月4日	日本成長戦略本部で「危機管理投資」「成長投資」の戦略分野を提示 【17の戦略分野】 AI・半導体、造船、量子、合成生物学・バイオ、航空・宇宙、デジタル・サイバーセキュリティ、コンテンツ、フードテック、資源・エネルギー安全保障・GX、防災・国土強靱化、創薬・先端医療、フュージョンエネルギー、マテリアル(重要鉱物・部素材)、港湾ロジスティクス、防衛産業、情報通信、海洋
令和7年11月11日	「地域未来戦略本部」を設置 【本部構成】 本部長：高市内閣総理大臣 副本部長：木原内閣官房長官、黄川田地域未来戦略担当大臣 本部員：内閣府特命担当大臣（金融）等の関係大臣
令和7年11月21日	「『強い経済』を実現する総合経済対策」が閣議決定
令和8年夏(5月頃)	国において「地域未来戦略の政策パッケージ」を取りまとめ

2 地域未来戦略の構成

国において、本年夏（5月頃）までに、以下で構成される「地域未来戦略」の政策パッケージを取りまとめる。

【戦略産業クラスター計画】

地域ごとの戦略産業クラスター形成に向けて、知事とも連携しつつ、地域ごとの計画を策定する。

※地方経済産業局長を中心に、各省庁の地方支分部局長の協力の下で議論を進める。地域のコミットメントを得ながら、知事とも連携して策定。

＜戦略産業クラスター＞

熊本の TSMC や北海道のラピダスを支えるクラスターのように、17の戦略分野に関する検討が主導する形で、企業の大規模投資を中心に形成されるもの。

【地域産業成長プラン】

地場産業の成長・発展に向けて、知事主導で策定された各都道府県の地域産業の成長プランを強力に後押しする。

＜地域産業クラスター＞

知事主導で計画されるクラスターであって、複数自治体の連携促進や中堅企業支援等の適用など、政府の施策の戦略的活用をプッシュ型で提案していくことで、その形成・拡大を目指すもの。

＜地場産業支援＞

地場産業の更なる付加価値向上や販路開拓等を支援し、地域経済の拡大を目指すもの。

(例) 高付加価値なインバウンド観光地づくり、農林水産物・食品等の海外展開支援、市が主導するスポーツ施設を核とした地域づくり など

3 本県の対応状況

- ・令和7年11月5日に庁内のプロジェクトチーム会議を立ち上げ、地域未来戦略の検討を開始。
- ・令和8年1月19日に経済団体等を交えた情報連絡会議を開催し、「地域産業成長プラン」に盛り込む内容等を議論
- ・現在、関係団体・市町村等と連携・議論しながら県内の産業クラスター等の検討を実施中

地域産業成長プランに盛り込む内容の例 ※関係団体等と議論しながらブラッシュアップ中

<地域産業クラスター>

【想定される分野】

○成長軸の創出

「モビリティ(次世代自動車・航空機)」、「ヘルスケア(メディカル・バイオ)」、「ネクストインダストリー(宇宙・水素等)」、「コンテンツ(まんが・ものづくり創作物等)」、「GX・エネルギー(木質系バイオ・脱炭素関連)」

○基盤的産業の成長

「フード・マニュファクチャリング(食品加工)」、「サポーティング・インダストリー(電子デバイス・電気機械・素形材等)」、「戦略的デジタル化(情報通信・AX)」

<地場産業支援>

【想定される分野】

「農林水産業(農地の大区画化・スマート農林業の推進等)」、「食・民芸(更なる販路開拓等)」、「観光産業(受入体制のレベルアップ等)」

4 令和8年度の組織体制等

(1) 令和8年度の組織体制

- ・喫緊の課題である人口戦略の推進に向け、全庁を挙げて分野横断で取り組むため、政策統轄監の下に人口戦略推進本部を設置
- ・同本部に人口戦略課と産業クラスター室を設置し、産業政策と一体的に人口戦略や移住定住・関係人口の増加を推進

(2) 今後の進め方

引き続き国の動きを注視するとともに、関係者等の意見をうかがいながら、本年夏頃までに鳥取県版地域産業成長プランを策定する。

令和7年度 鳥取県ミラ・クル・とっとり運動・SDGs活動表彰について

令和8年2月25日
協働参画課

地域づくり活動への意欲を高めるとともに、地域の良さを再認識し、地域への愛着を深めることにつながるため、地域や団体等の特色を生かした活動を積極的に展開している団体、学生、児童又は生徒等の優秀な取組を表彰しました。

1 表彰の概要

- (1) 表彰の対象 県内で令和7年中に実施されたSDGsの視点に基づく地域づくり活動
- (2) 応募数 37件(一般部門19件、学生部門18件)

2 表彰式の概要

- (1) 日時 令和8年2月1日(日)午後1時30分から2時20分まで
- (2) 会場 とりぎん文化会館「第2会議室」
- (3) 出席者 中原副知事、(株)鳥取銀行 竹本常務執行役員、
あいおいニッセイ同和損害保険(株)鳥取支店 谷口支店長、
ミラ・クル・とっとり運動推進委員会表彰部会 森本委員、
受賞団体代表者



3 受賞団体

- (1) 一般部門
ア 最優秀賞

団体名	活動名・地域	活動内容
「椿の森」を後世に伝える会	「椿の森」を後世に伝えたい～森林保全と自然観察会～(琴浦町)	琴浦町の「椿の森」と呼ばれる区域の保全活動を、所有者とその家族、地域のボランティアが一致団結して行い、椿祭りや椿鑑賞会、親子を対象とした自然観察会等を開催して自然保護に関する啓発活動を行った。

イ 協賛企業賞

団体名	活動名・地域	活動内容
あいおいニッセイ同和損保賞		
困り感を抱える子を支援する親の会／らっきょうの花	発達障害、特にLD(学習障がい)児・生徒・学生、または者に向けた支援や理解啓発活動(鳥取市)	障がいがある方や不登校の子ども、保護者の支援活動として定例学習会、「保護者おしゃべりカフェ」を毎月継続して開催したほか、障がいの有無に関わらず読書を楽しめるイベントなどを実施した。
大塚製菓賞		
コトウラ3区	遊休公共施設を有効活用し地域のコミュニティハブとなる(琴浦町)	令和元年から閉館していた旧カウベルホールをコミュニティ施設としてお試し稼働する取組として、マルシェイベントやカフェスペースなどを実施した結果、4か月で延べ4,700人の利用があった。

ウ 優秀賞

団体名	活動名・地域	活動内容
北山自主防災組織	「だれ一人取り残さない」北山自主防災組織避難訓練(八頭町)	地震災害時の避難訓練で、ご近所による要支援者の安否確認と避難支援を行って個別避難計画を見直したほか、避難所開設や運営訓練を実施した。
大山ワワワの輪を広げる会	大山おどるまつり(大山町)	大山町合併20周年を機に、地域ごとに伝わる伝統的な踊りを参加者全員で楽しく踊るイベント「大山おどるまつり」を開催し、世代間交流や地域間交流を行った。
Budou Architecture Experimental Collective	たぐるとうご(湯梨浜町)	湯梨浜町にある東郷池周辺施設を巡って歴史的価値や新たな活用法を考えるツアーの開催や、竹製のいかだを制作してイベントで浮かべる取組を行った。

(2) 学生部門

ア ミライを担うとりぎん大賞

団体名	活動名・地域	活動内容
劇団海の気持ち メーカー	劇から始める海の課題解決 (鳥取市)	海の課題解決に取り組むため、海岸清掃や地引き網の活動を地元関係者と協力しながら継続するとともに、新たに海の現状を伝える劇を創作し、地元の小学校や船磯海岸などで公演する活動を行った。

イ 最優秀賞

団体名	活動名・地域	活動内容
大学生の部		
不真面目商店	不真面目商店 (鳥取市)	中心市街地の空き家に地域交流スペースを作り、子どもから高齢者まで自然に交わる場として「朝コーヒー」や「みんなの保健室」を開催。また、「棚オーナー制度」を設け、運営を持続可能な仕組みにした。
高校生の部		
鳥取県立八頭高等学校 家庭科探究チーム	子ども食堂へいこう! (八頭町)	「寺子屋みらいこおげ(子ども食堂)」が抱える人手不足という課題解消のため、高校でのボランティア募集実施やマニュアル作成を行うなど、継続的にボランティアを派遣するための取組を行った。
小中学生の部		
Potato Kids	みんなのやってみたいが地域を元気に (日吉津村)	農業従事者の後継不足や地域のにぎわい創出などを課題として捉え、もち米栽培や大漁旗づくり、マルシェ等イベントでの縁日出店や野菜販売、料理教室など、メンバーがやってみたい活動を行った。

ウ 優秀賞

団体名	活動名・地域	活動内容
大学生の部		
榎本 楓	子ども食堂(さいきんどうですか食堂) (鳥取市)	産後ケア施設「やわらかい風」で開催する子ども食堂で、ボランティアとして絵本の読み聞かせや子どもの相手をする活動などを行った。
公立鳥取環境大学 学生EMS委員会	未来ノオト-TUES Sustainability Week2025-の企画運営(鳥取市)	「防災×食とエネルギー」をテーマに多様な機関や学生団体が連携し、地域住民が防災・エネルギー・食・環境のつながりを総合的に学べる場を提供した。
鳥取看護大学・鳥取短期大学 地域活動サークル	「くら×スポ」 (倉吉市)	鳥取県発祥のスポーツやレクリエーションスポーツを中心に、倉吉市内の地域の子どものから高齢者まで楽しめるイベントを企画し、地域住民と交流しながら健康増進を図った。
高校生の部		
トリラブ	トリラブ(tottori_lovers) (県全域)	鳥取の高校生が地域を盛り上げるため、インスタグラムで地元の店舗や観光スポット等、地域の魅力を発信した。フォロワー数約2600人、総再生回数約155万回を記録した(令和7年11月時点)。
小中学生の部		
地域の輪 SIGMA	中学生カフェでまちを応援プロジェクト (境港市)	地域の酒造会社とコラボして、廃棄される酒粕を利用したドーナツなどのスイーツを開発し、中学生が地域のイベントで販売し、地域の賑わいづくりに貢献した。
中学生地域活動グループとらウサ8	OGC(おがもガールズコレクション)、おがも笑顔のまつり中学生出店(倉吉市)	小鴨地区を活気づけるため、住民が楽しめるファッションショーやダンスなどのイベントを企画運営し、地区住民が集い交流する場を提供した。また、地区の祭りに参加し、地域活性化につなげた。

(参考) 応募数の推移 ・一般部門 R4:23件 R5:31件 R6:20件 R7:19件
・学生部門 R4:7件 R5:7件 R6:15件 R7:18件

とっとり若者活躍局 令和7年度活動報告会の開催結果について

令和8年2月25日
協働参画課

県内の高校生から30代までの方で構成された「とっとり若者活躍局」の令和7年度活動報告会を「とっとり未来創造タスクフォース」と合同で開催しましたので、結果を報告します。

1 活動報告会の開催概要

- (1) 日 時 令和8年2月15日(日)
午後1時～1時40分
- (2) 場 所 鳥取市民交流センター 多目的室1 (鳥取市幸町)
- (3) 出席者 とっとり若者活躍局メンバー 23名
(高校生8名、大学生9名、社会人6名)
とっとり未来創造タスクフォース 5名
平井知事
- (4) その他 報告会の様子をZoomで配信した。



2 報告の概要

- (1) チームプロジェクト活動 (メンバー内での合意形成をもとに、メンターの伴走支援を受けながら実施)

ア 概要

名称	内容
ランタンフェス	県内の若者に非日常的な体験を提供するとともに、地域と若者が共に創るイベントを目指して開催し、約600人が来場した。 [日時等] 11/8(土)、隼Lab.(八頭町) [内 容] ランタンリリース、若者によるステージ、地元店舗による飲食ブース
Heart Café	中・高・大学生が学校、学年の垣根を越えて交流しながら自由に過ごすことができる居場所づくりをイベントとして開催し、32人が参加した。 [開催地・回数] 東部2回、西部1回、中部1回(首都圏在住大学生「とっとりへウェルカニネットワーク」との連携企画) [内 容] わらび餅づくり体験、ボードゲーム、大学生の生活紹介
砂丘でコスプレイベント	鳥取砂丘を新たな体験・表現の場として発信するため、コスプレ初心者でも参加しやすい撮影イベントを開催した。外国人を含む9人が参加し、メンバーによるコスプレ写真を投稿したSNSでの総インプレッション数は32,460を記録した。 [日時等] 11/29(土)、鳥取砂丘東側(鳥取市) [内 容] アニメ・漫画のキャラクター衣装の貸出・撮影
子育て王国とっとりを盛り上げよう!!	中部地区における休日に親子が遊べる場の創出を目的としたイベントを開催し、約100人が来場した。(別途、ミラ・クル・とっとり元気フェス(12/6開催)に親子で楽しみながらSDGsを学ぶブース出展を実施) [日時等] 11/30(日)、アロハホール(湯梨浜町) [内 容] ハイハイレース、鳥取短期大学学生によるステージイベント、子どもの性をテーマとした助産師講演会、魚釣りゲーム等
趣味道楽	新たな趣味との出会いを通して、人生をより豊かにすることを目的としたイベントを地元飲食店等と連携して開催し、54人が参加した。 [開催地・回数] 東部3回 [内 容] お酒初心者向けのイベント、ボードゲーム体験会、お寿司作り体験会



ランタンリリース前の様子
(ランタンフェス)



ウェルカニネットワークとのコラボ
(Heart Café)



地域と連携した子育てイベント
(子育て王国とっとりを盛り上げよう!!)

【参考】パワープロジェクト活動（審査会で採択された大規模プロジェクト） ※政策提案会(12/21)で報告済

名称	内容
Tottori Colorful FES II	県内若者の音楽活動及び出店活動の機会の創出を行うため、音楽と食をテーマにした若者主体のフェスを開催し、約3千人が来場した。ステージイベントでは、出演者から客席に向けて鳥取のおすすめの場所紹介など鳥取の魅力発信に努めた。 [日時等] 10/5（日）、バードハット・鳥取駅前風紋広場（鳥取市） [内容] 音楽ステージ（13団体）、食・物販ブース（31者）
53万人総クリエイタープロジェクト	県内の魅力発信の担い手育成、広報力の強化を図るため、SNS発信力の向上を目的としたオンライン講座や動画制作ワークショップを実施し、119人が受講登録、ワークショップには56名が参加した。 受講生による投稿本数は約200件、学生による鳥取の魅力発信や新規に開業した飲食店等の投稿が話題となり、再生回数約700万回を記録した。



地元の大学生によるステージ
(Tottori Colorful FES II)



SNS 中の人交流会の様子
(53万人総クリエイタープロジェクト)

イ 主な成果等

- ・1年間の活動を通じて、学校や地域の垣根を越えた交流・連携が生まれ、メンバー自身が地域の課題や魅力を再発見し、郷土愛の醸成につながった。
- ・より効果的なプロジェクトとなるよう、メンターが伴走支援したことで、地域と連携した事業を行うことができた。
- ・若者目線で捉えた課題意識をもとに企画・実行することで、メンバー自身の成長に繋がった。
- ・イベント等への参加者の満足度は概ね高いものの、広報不足等により参加者数が伸び悩む取組があった。
⇒令和8年度予算において、情報発信の強化を検討

(2) とっとりへウェルカニネットワークと連携した活動報告

2月7日（土）に東京都内で開催された首都圏在住の若者が集うイベント「鳥縁祭」（とっとりへウェルカニネットワーク実行委員会主催）において鳥取の魅力発信する企画を実施した。地域を越えた若者が連携することで、県外に出ても鳥取とつながり続ける仕組みづくりを構築することができた。

<企画の概要>

- ・とっとり神経衰弱…鳥取の特産品や観光地等を素材にし、遊びながら鳥取の魅力を知るカードゲーム
- ・とっとりミライポスト…自分宛てに書いた手紙が1年後に届き、鳥縁祭と鳥取を思い出す契機とするもの

(3) とっとり若者活躍局のこれまでの成果報告とこれからの活動に向けた決意表明

とっとり若者活躍局発足後3年のあゆみを振り返るとともに、今期で卒業するメンバーからの今後の活動に向けた決意表明を行った。

<決意表明の概要>

- ・仕事、子育て、活躍局の活動と三刀流で大変だったが、県の施策に関われるよい機会となった。今後もOBとして関わっていききたい。
- ・活躍局に参加し、行動力や探究力などを培うことができた。今春、県外へ進学するが、進学後も鳥取を盛り上げていく活動をしたい。